

課題名	25 ニラの休眠程度と保温栽培	分類	①
	ニラの長期どり栽培における品種選定と保温開始時期		
試験研究年次	63~2年(完了)		
I 目的	ニラの周年的な長期どり栽培に適する品種の選定を行うとともに、これらの品種について収量や品質が安定する保温開始時期を明らかにし、栽培技術改善に資する。		
II 試験方法	<p>1 供試品種 グリーンベルト(武蔵野種苗)、キングベルト(サカタのタネ)、スーパーグリーンベルト(武蔵野種苗)、ワイドグリーン(サカタのタネ)、たいりょう(渡辺種苗)、S-10(サカタのタネ)</p> <p>2 試験区の構成 無加温硬室ハウス内に定植後、ハウスを開放して管理を行い、11月2日、12月6日、1月6日及び2月3日に株を刈り込み後、それぞれ小型ビニルトンネルで保温を開始して3月20日まで被覆を行い、その後の生育収量について調査を行った。</p> <p>3 試験規模 1区 20株</p> <p>4 耕種概要 (1) 播種日 63年4月15日 (2) 定植日 6月21日 (3) 基肥量 $N=33.2\text{kg}$ $P_2O_5=35.8\text{kg}$ $K_2O=28.2\text{kg}/10\text{a}$ 当たり (4) 栽植密度 条間30cm、株間30cm、4条1株3本植え</p>		
III 主要成果の概要	<p>ニラの周年長期どり栽培は、'グリーンベルト'や'キングベルト'のように休眠の浅い品種が適する。また、保温は2月以降に開始すると、その後の収量が安定する。</p> <p>1 定植時の苗の形質は、'スーパーグリーンベルト'が10株重量や葉数が多く、'ワイドグリーン'、'たいりょう'は葉長が長い。保温開始までの10株当たり収量は'グリーンベルト'と'キングベルト'が約5kgと優れる。</p> <p>2 保温開始後の収量は、各品種とも2月から保温を開始することにより増加して、翌年12月までの10株当たり収量は'キングベルト'が約13kg、'グリーンベルト'が約12.5kgである。</p> <p>3 'グリーンベルト' 'キングベルト'は11月に保温を開始しても、明らかな生育の停滞は認められず休眠は浅いが、'ワイドグリーン'と'たいりょう'は、11月及び12月に保温を開始すると冬期の生育が停滞して休眠には入り、4月上旬まで収穫することができず長期どり栽培には不適である。</p>		

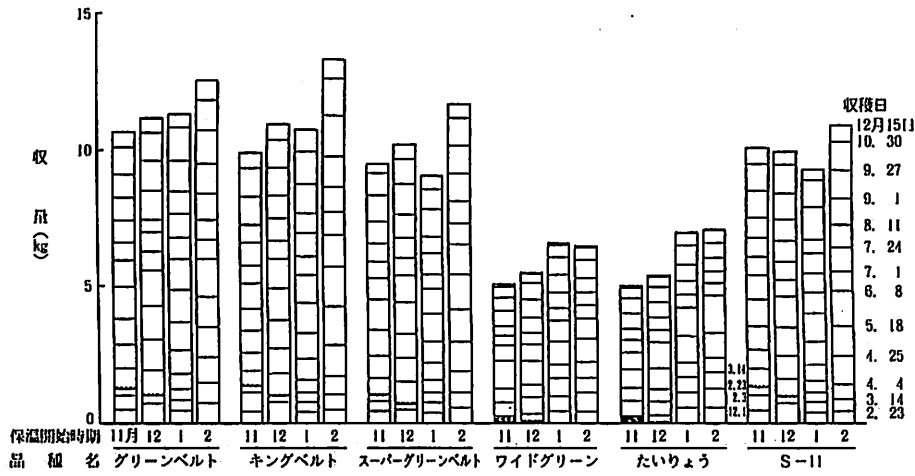
IV 主要成果の具体的データ

第1表 定植時の苗の形質 (63年)

品 種 名	10株 最 大 葉 葉数 備 考				
	重 量	葉長	葉巾	枚	
	g	cm	cm		
グリーンベルト	25	36	0.31	6.1	葉は長いが、ややたれる。
キングベルト	27	32	0.38	6.4	葉がたれる。
スーパーグリーンベルト	31	32	0.38	7.5	葉色濃く、葉巾は広いが、ややたれる。
ワイドグリーン	23	42	0.27	5.9	葉は直立するが、葉巾がややせまい。
たいりょう	25	39	0.28	5.6	"
S-10	22	32	0.34	5.8	葉巾はやや広いが、ややたれる。

第2表 保温開始までの時期別収量 (63年)

品 種 名	10株重 (g)				
	9月6日	9.26	11.1	12.1	計
グリーンベルト	1830	1285	1450	570	5135
キングベルト	2180	1040	1210	475	4905
スーパーグリーンベルト	1885	1200	1115	465	4665
ワイドグリーン	1228	710	410	65	2413
たいりょう	1100	655	465	55	2275
S-10	2040	995	1135	495	4665



第1図 保温開始時期と収穫期毎の収量 (10株当たり) (63~1年)

注) 収量は保温開始時期から12月まで15回収穫したものを3ヵ月毎4回に分けて積算した。

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 ニラの周年栽培における技術指針として活用する。
- 2 保温開始後、トンネルを密閉すると白斑病が発生しやすいので、晴天日の昼間は換気に努める。

VI 今後の研究上の問題点

苗の葉令及び定植時期と休眠程度

VII 資料名

- 1 1年度 福岡県農業総合試験場園芸研究所 野菜試験成績書
- 2 福岡県農業総合試験場研究報告 B (園芸) 第11号